

自民党本部炎上は「カクマル」がやった!?

(カクマルの反革命新聞「解放」10月1日付より)

なるべくカクマルの謀略と闘おう

自民党本部炎上こそ百%も二百%も正義のたしかいだ。
ハ・ニハ一期施行宣言と機動隊六千の威儀体制で、成田用水工事と暴力的
に着工したやり方をみよ、十九年間の歴代自民党政権による農民殺し、農
地強奪をせよ。

金權、汚職、極右翼反動の中曾根・田中が政治を牛耳り、何億円もの甘い
汁を吸つ一方で、労働者は涙金のベースアップも弾圧されストライキすらも
太弾圧で報復されるのだ。戦後総決算一軍大化・改憲、天皇一中曾根一全会
談判にしづかに朝鮮侵略をせよ、こんなやり方、これで一切合財の張本人に
対する人民の怒りの爆発は絶対に必要があり、当然のたしかいだ。

九、一九蜂起戦こそ、人民が生きるためにギリギリの一大反撃だ。

謀略説と「カクマルの大破産」

人が自民党本部炎上、マルショア独裁の牙城の焼きうちを歓喜の声で迎
えている時、中曾根・田中以上に打撃をつけ、不快を感じたのがカクマルだ。
カクマルはひとかぎり、一九戦争の葉節的衝突力を傷つけ、解体するため
に「自民党本部炎上=謀略」「カクマルは、直ちに「右翼」「救国靈団」
が、九、一九戦争の轟轟とめぐって分岐してこの中で、唯一、カクマルの計
が「自民党本部炎上=謀略」についたなる悪魔黒魔のドマを吐いていたのだ。
革命的武装斗争の大爆発に直面したカクマルは、直ちに「右翼」「救国靈団」
の名のつた新聞社へ電話を入れた。だが、しかし、この運動は大破壊した。
「右翼」「救国靈団」は正体不明で何ともない。カクマル以外の誰がこんな
ファシスト的謀略工作をやるものか。

しかもカクマルは、これを巧口に反革命新聞紙上に書いたのがこれがだ。

「『救国靈団』は
カクマルの謀略だ!!

「11月の国民統裁選を直前に
じた党内対立・抗争の決着のシ
ボルとして强行された自民党
本部に対する火炎謀略につづく」

(カクマル機関紙 オハニホー・カクマル)

自民党本部大炎上の原因調査委員会

「救国靈団」「自民党本部大炎上」「三里塚問題」で
反撃保証の行進が実現する

10月10日(水)
正午
三里塚オーパ園

10・10 決戦の三里塚現地人!

東京派

ボルとして銀行へ出でる。金部上に「カランダシ銀團」。ハーフ
(ハーフ)銀團、オハ三井等。十月一日よりソシタル銀團
舊の講話スチーリーをテッキあげてあるのだ。權力の講話
頭の體まで犯されたハクマルにしてはひどい出での口實だ。

國主義者に学んだ校諭術や陰謀にてて延命を考えてゐる點は、大體アーヴィングの「アーヴィング」本十卷
恥ずべき人民の敵だ。

謀略論の反革命的本質

カウマルは脇髄がやせに人民の憲政の爆発が、現に兵庫県立命
といひ、田舎へゆきつゝござれることの理難を貰ひたふことだらけ
なう。

《权力内謀略》——「が放つテクニックを実行し、起業集団が進認し、やがてトヨシ自民党内抗争に決着をつかむ》——こんな荒唐無稽なトーラムはカクマに自身が全く信じてはいなかった粗末な代物なのだ。だがしかし、怒りなしには読めない。田井の「泳がせ」論を密輸入し、もっとあくどくしたものだ。

今日では、カクマには武装開拓に専念するのいや、こなれ松
力の謀略と取り交えて革命的武装闘争の波及力・衝撃力を解体
し、TAKI黒いボーリヤクデラギ人民の信頼に謀叛を持ち込み、
階級的感性をアピラセントとしてきた。

林して革命軍と革共同、三里屯勢力への田舎口ルを推進する
バキにしよつといつのだ——絶対に許せざる革命軍アマガセー
だ。

——ところが、カクマルの「怒り」は決してカクマルのためでなく、どこかの「謀略の主人公」は日帝权力には可からぬ。略々白帝打仆の权力闘争を嗜み、白色テロを向けるのだ。まさに日本・中曾根の最も忠実な先兵だ。正真正銘の反革命的なやつか

テ、子だけの常習犯"カクマル
解説社責任者 指吸角野「自殺」!!

西田力クマニハ、ニキナ給鐵道起業の進。ひづて三里塚決戦場の古橋にて進行するカクマニの木来に絶命した吉田=角。

野口雨翁著『浪花』に「白風で高波…水死」。和歌山で堺の男性

三里塚人

国民党中央上層にて「レーベン党員者、學生の反帝運動、三里塚の決起を謀論」トマセント「上母」止め、解体のため全員出席する。それがカヘマニの机の大作だ。がやくも計らはせ難能して云々。
ルビには、由色トロにた。革命軍と革共団、三里塚の機械工場の廃止をかくまにの廃止だ。絶対に許さぬ。

絶望的危機の東西カウマル

一体、これがまだ力クマには何をやつておるか。ニセ子の隠進、「
ニセ子、ニセ子でござりや」と、ニセ子は、ニセ子でござりやつたのは誰か。又、自殺もしくは力クマに
殺された力クマに分子水本潔を板方の謀殺にしたてあげて大
破産した水本子一。昨年5月には京大潜入力クマがニセ子の

革命派の横濱大學にてセの「爆弾電話」をかけて当局、政府に譲示した。

運動を引きださうとしたのも力不足だった。

「なぐり口をあてたテマで傷つけられたが、力と運命による奇跡をハラまき、三里塚武装抗争を終えた。